■コースター様_パンフレット(A3／横420mm×縦297mm)_0102

これからのふたば・ふくしまを担う

想い人

OMOIBITO

双葉郡の高校生に、
東日本大震災発災直後の話や、避難中の暮らし、
学校での活動内容、今後の想いについて、お話を伺いました。
今後の福島・双葉郡を担う若者の目線から
復興の歩みをお伝えします。

CONTENTS

02 インタビューした学生の声

03〜14 これからのふたば・ふくしまを担う想い人 インタビュー

03 荒川 礼奈さん
05 猪狩 大樹さん
07 坂本 華凜さん
09 渡邊 快さん
11 田中 愛琉さん
13 渡辺 空さん

東北大学 展開ゼミ

「課題解決型(PBL)演習A被災地復興の課題に取り組む」

講義の概要

この授業は、宮城と福島に分かれ、被災地の課題についてフィールドワーク等を通して学び、課題解決の取り組みを企画することを目的としています。2020年度の福島担当の学生は、被災地からの情報発信をテーマにふたば未来学園高校の生徒へのインタビューを実施しました。

教育学部1年生

課題を自分事としてとらえることの大切さを学んだ。インタビューをした高校生やカタリバさん、講演をしてくれた方など課題を自分のことのように考え、解決しようと尽力している方が多かった。自分のことのように課題を考えているからこそ実際に行動したり、相手の気持ちに寄り添った活動ができるのだと思った。

文学部1年生

必要だと思うのは、まず被災地から外部への発信を継続的に行っていくことである。震災の記憶を継いでいくことにも同じことが言えるが、記憶を語り継ぐことは非常に重要ではあるものの途中で途切れては意味が無く、一時的な取り組みでは影響も少なくなってしまう。被災地の現状を発信し、かつそれを続けていく取り組みやそれを支える制度が必要になると思う。

理学部1年生

受講生同士の議論で、自分にはない視点（教育分野や被災者支援など）から、課題を見つけることができた。ここから明らかになったことは、現在も震災に起因する問題が多分野に深く根ざしているということであり、これら諸問題を一つずつ解決していくことが重要であると考えた。一方で、インタビューやフィールドワークで、震災を乗り越えて、課題を解決するために行動する人たちがいることを知り、その人たちが持つ復興へ向かう力強さも感じた。私はこれらに復興への希望を見出したい。

法学部2年生

被災者一人一人の精神的な面などのケアがまだまだ必要だと思った。また、震災により避難生活をしていく中で、その後地元に戻ってくる若者たちがかなり少ないとインタビューの中で2人の生徒が共通して語っていたことは印象的だった。